

## 特集 「生きる力と希望をはぐくむ教育の推進」

—— 『読み・書き・そろばん』基礎学力向上 研究指定校 ——

### 自ら学ぶ生徒の育成

～教科の基礎学力の向上を目指して～



浦和区 木崎中学校 教諭 田中雄真

## 1 はじめに

本校は、平成25・26年度の2年間、さいたま市教育委員会の研究指定を受け、「自ら学ぶ生徒の育成」を研究主題とし、学校、家庭、地域と連携を図りながら、全教科において子どもたちの基礎学力を高めていく研究を進めてきた。

## 2 研究の概要

### (1) 主題設定の理由

全国学力・学習状況調査において、さいたま市は、教科に関する調査について、全ての科目で全国の平均正答率を上回っており、生活習慣や学習環境等に関する調査でも良好な結果となっている。本校でもさいたま市と同じような傾向がある。しかし、分布を見ると、二極化していることも事実であり、それが進んでいる。学習の成果が上がらない生徒たちの課題は、様々である。学習意欲に欠けていたり、家庭学習の習慣が身に付いていなかったりしている。また、個別に配慮が必要な生徒、日常生活から不安定な生徒もいる。その一方で点数を取れる生徒たちの中にも、単に知識を問う問題では正答率が高いが、記述式の問題等でその身に付けた知識や技能を使って自分の考えなどを表現する活動については苦手としている生徒も存在している。

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査では、基本的な生活習慣、家庭学習、読書等で肯定的な回答をした生徒ほど、調査した教科の正答率が高いという検証結果が出ている。その傾向は本校

の生徒の実態からも伺うことができ、望ましい生活・学習習慣を定着させて基礎学力を向上させ、「確かな学力」の育成へと繋げていくことが本校の課題の一つとなっている。

このような生徒の実態を踏まえて、学ぶ基礎となる生活習慣の向上、良好な学びの環境整備、そして何より知識を教えるだけでなく、思考力、判断力、表現力も含めた基礎的な学力を育てることが、生徒自身が主体的に学ぶために極めて重要であると考えた。そのような力を育成することが、どの生徒にも学習指導要領で示された学習内容を確実に身に付けさせ、学ぶ意欲、学ぶ力をはぐくみ、確かな学び・学び合いを通して主体性や自信を培うことになると考え、本主題を設定した。

### (2) 研究の方向性

学習をめぐる環境を整え、分かる授業を行うことで、主体的に学習に取り組む生徒になる。

## 3 研究の内容

### (1) 「わかる授業」の実施

- ① 「木崎中の生徒に付けさせたい基本的な力」を設定
- ② その力を付けるための「具体的な手立て」を設定

例：英語科

- ・付けさせたい力  
「既習事項を用いて、自分の考えなどを英語で表



現する力」

・手立て

「場面設定をし、英語で表現する活動を継続的に行う。」

具体的な取組内容としては、全教員による公開授業や教科等の授業の見学、授業研究会を実施し、指導主事から指導を受けた。さらに教科部会を重ね、研究を深めてきた。

(2) 生徒委員会の取組

アンケートより、「計画的な行動」、「自己肯定感」、「早寝早起き」などの「生活習慣」に課題があることが分かった。そこで、各委員会で右の授業規律を啓発するポスターを作成するなど、課題を改善するための活動を行い、生活習慣の向上を図った。

例：学級委員会

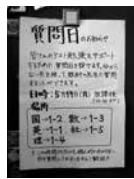
- ・各学年の課題設定、課題解決の手段の検討

- ・校外学習の実行委員会を組織

(3) 家庭学習マニュアル

全教科の家庭学習の方法について、理解度別に効果的な学習方法を提示した「家庭学習マニュアル」を全生徒に配付した。

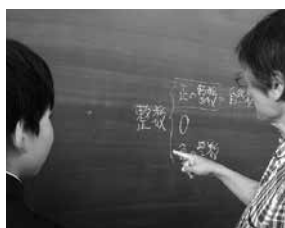
(4) テスト前質問日



定期テスト前の部活停止期間に、希望者対象の「質問日」を放課後に設定した。生徒の質問などに対し、教員が個別に対応した。

(5) 夏季休業中の補習

夏季休業中に学年ごとに補習を実施した。内容



は、夏季休業中の課題のサポートであり、対象生徒は、学年会で検討し、リストアップされた生徒及び希望者とした。



## 4 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 「授業がよく分かる」と回答した生徒が約5%増えた。
- 教員の授業に対する意識が高まった。
- ICTを活用する教員が増えた。
- 他の教員の授業を見て学ぶ機会が増え、お互いに授業を見合う雰囲気が出てきた。
- 「提出物の期限を守っている」と回答した生徒が約8%増えた。加えて、学習課題を受け身的にただやるのではなく、目的意識をもって課題に取り組む生徒が増えた。
- 質問日を設定し、勉強の仕方が分からないという生徒の学習の手助けができた。
- 家庭学習マニュアルを配付し、達成度によって異なる学習の方法の指導ができた。
- 学級担任が家庭学習マニュアルを活用し、担当教科以外の教科でも、学級の生徒の指導に役立てることができた。個別に支援が必要な生徒への指導に効果的であった。
- 生活についてのアンケートで、「朝食」、「早寝早起き」、「家庭でのコミュニケーション、お手伝い」、「近所の人へあいさつ」、「地域行事への参加」についての回答が昨年度より上回り、生活習慣の向上が見られた。
- 学習についてのアンケートで、「予習・復習」が昨年度より悪くなっている。加えて、思考、判断、表現の力についてのアンケートでも、成果が上がらなかった。「授業がよく分かる」と回答した生徒が増えていることや、生活の質の向上が見られたことを考えると、今後指導の工夫改善を行い、さらに本校の研究主題に迫るように、全員で研究を深めていきたい。
- 基礎学力の向上には、学校だけでなく家庭や地域の協力が不可欠なため、家庭や地域へどのように働き掛けていくかが、課題である。
- 各教科だけでなく、各領域での指導をどのように関連付けていくかを考える必要がある。